

「 さ さ え 」

2018年 10月発行 情報誌 第65号

発行 NPO福祉用具ネット事務局

住所: 福岡県田川市伊田 4395 (福岡県立大学内)

TEL/FAX: 0947-42-2286

E-mail npo-fukusiyougunet@sage.ocn.ne.jp

新 URL <http://npofukusiyougu.sakura.ne.jp>

情報誌「ささえ」は年4回(1月・4月・7月・10月)発行しています。

印刷 よしみ工産(株) 北九州市戸畑区天神1丁目13-5

福祉用具はあなたの自立をささえます。

あなたのささえがNPO福祉用具ネットを元気にします。

NPO福祉用具ネットは『抱え上げない介護技術』を推進します。写真のような介護はやめましょう。



洗髪シャワー



NPO福祉用具ネット開発品第1号

【製造元】

(株)福祉SDグループ

平成27年より、充電式も発売開始。【発売元】キヨタ(株)

これまで、NPO福祉用具ネットが関わった
主な開発協力品 (現在は製造中止となっています。)



アルファブラ
ソラ クッション

SORA



尿吸引ロボ「ヒューマニー」



特定非営利活動法人

NPO福祉用具ネット

「大切な芽を皆さんのやさしさに包まれながら育てていきたい…」

むつき庵オムツフィッター3級福岡研修に参加して

宇都宮病院 塚原大和
(理学療法士 SAGA あたりまえケアネットワーク 代表)



今回、私は9月7日・8日に福岡県立大学にて開催されたむつき庵オムツフィッター3級研修会にスタッフとして参加させていただきました。参加者は、福岡・佐賀・鹿児島・長崎・大分…遠くは沖縄・茨城から、75名の参加でした。運営スタッフは、講師も含め総勢14名。

1日目…まず最初に、むつき庵副所長である熊井利将さんより講演「排泄ケアのための総論&福祉用具について」。

排泄とは、生活している環境やその人の状態によって十人十色であり、個性の高いもの、単に「排泄」としてだけでなく、その人の暮らし全体から考えなければならないもの。姿勢管理や適切な用具使用が大事で、アセスメントが肝だと教わりました。私はお話を聞きながら、今までの自分自身の視野の狭さ・知識のなさを恥ずかしく思いつつ、これは職場や地域で伝えて

いかなければならないことだと強く感じました。おむつの選び方・使用方法を間違えれば、漏れや皮膚障害を引き起こすだけでなく、座位姿勢をくずしたり、股関節が動きにくい状態を作り出すこと、また各種おむつやパッド・パンツ・ホルダーによっては排泄が容易になったり、あきらめかけていた外出が可能になったりすること、ぜひ医療福祉に関わる全ての人々が共有できたらいいなと感じました。熊井さんのお話で一番印象的だったのは、病院・施設に関わる前のその人の輝いていた時を知ることが大事だということ。これは当たり前なことかもしれませんが、私たち医療福祉職は人の人生の一部に関わる職種でありながら、日常業務の忙しさに時間がない・人が足りない・物が無いと言い訳をし、目の前の人のそれまでの人生・大切にしてきたこと・背景をとらえられていないのではないかと…そう反省させられる機会となりました。生活を、暮らしをみる視点の大切さを改めて学ばせていただきました。

午後からは、①おむつの当て方実践、②おむつの吸水実験、③排泄用具検証と移乗方法の学習、④その他の排泄ケア用品の4つの班に分かれそれぞれを体験する時間となりました。



今回私は、「移乗方法の学習」を担当させていただきました。まずはポータブルトイレの種類…高さ調整ができるのか、アームサポートが外せるのか(はね上げ可能か)、けこみがあるかどうかでの違いなどを紹介。立って移乗できる人・お尻が上がるけど立てない人・お尻が上がらない人・座位が保てない人などに対し、それぞれ座面の高さや足の位置・重さの移動を使った移乗・シートやリフト・スタンディング機器を使用した移乗介助などを伝達するとともに、現在取り組んでい

る抱え上げない介護についても紹介させていただきました。参加者の方には、福祉用具や機器を初めて見る・初めて触れ体験する方もいらっやっや、移乗について考える良い機会になったのではないかと思います。



個人的におむつの当て方や吸水実験、排泄用具検証を体験できなかったのが残念でしたが、参加者の方々の表情からそれらの体験が充実していたことがみてとれました。

1 日目の締めはおむつ検定。事前にテキストで学習した内容と熊井さんの講演で学んだことについての検定試験で、皆さん真剣に試験に臨んでいらっやっやいました。

その日の宿題として出されたのが、おむつをはいての排尿体験。私も体験しましたが、何度も何度も出そうと思っても出さず、おむつのままトイレに座ったところでやっとのことで排尿できました。寝た状態でも体験しましたが、何とも言えない気持ち悪さ…結局最後までは出し切れず残尿感を感じたまま、おむつを外すことになりました。おむつサイズが合ってなかったり、当て方が不適切だったり原因で漏れた場合はもっと不快なんだろうと思います。やはり排泄はできる限りトイレでしたいものですね。

2 日目…排尿体験フリートークから始まり、次はオムツフッター1 級の辻奈美さんによる「排泄にまつわる基礎知識」の講演がありました。

排泄に関わる部位の解剖・生理学や排尿・排便のメカニズム、尿や便の観察と正確な伝達の大切さ、便秘や下剤の種類まで、いかに自分が知らなかったか、忘れてしまっていたか、痛感させられました。辻さんのお話で一番印象的だったのは、便秘＝下剤ではなく、排泄状況や食事・運動量・姿勢・薬剤など総合的にアセスメントし、生活全般を見直していくことで排泄のトラブルに対処していくことが大切だということでした。

また、最後の事例では用具と身体のマッチング、環境と姿勢の関係性、多職種連携・協働により多角的な視点で問題解決に向けての方策が考えられる好事例

の紹介がありました。一人では対応できない場合は、知識のある職種、技術のある人に頼り、連携しながら進んでいくことでより良い解決策が見つかるのだな、と改めて学ばせていただきました。

午後からは一つの検討事例についてグループワーク。6 つの班に分かれ、いろんな職種・立場から積極的なディスカッションが行われていました。その後、それぞれの班が模造紙にまとめ上げ、発表と質疑応答。ユニークな発表や多くの視点・気づきがあり、私自身今後の職場での必要な視点や伝え方の勉強になりました。

最後に参加者の方々は 30 分間の理解度診断テストを受け、全日程終了。

今回、研修スタッフとして参加させていただき、自分自身の勉強になったのはもちろんですが、ひとつの研修会を行っていく上で準備・運営・撤収まで様々な手法を学ぶこともでき、実りの多い 2 日間でした。

スタッフとして呼んでいただき、このような素晴らしい研修会に携わらせていただいたことに感謝いたします。ありがとうございました。



講師・スタッフの皆様との記念撮影
次回は、3年後に開催予定！

足やお腹がむき出しで恥ずかしかろう、冷たかろう

～患者家族の声～ 患者家族Eより

毎日の仕事が終わりに入院中のお父さんの元に駆けつけることがすっかり日課になりました。駆けつける車中、私がいつも思うことは、「お父さん、今日はどんな姿なんだろう。きつそうじゃないといいな。」ということです。私が思い描く父のきつそうな姿とは。

- 経管栄養中でギャジアップされている。身体の位置が不適切で下方にずれてしまい、胃が圧迫されている。
- 体に無駄な力が入り緊張しており、麻痺側の足や腕に無駄な力が入り縮み硬くなっている。
- 病衣が乱れている。……などなどです。

つまり、元気でさわやかなお父さんを思い描きながら病院に向かうことはなかなかできません。なので、いつときも早く病院へ行き、お父さんを整えてあげたいと思い、心がザワザワします。病院の皆さんがそうしてくれていないわけではないのです。たまたま私が行く時間帯がそういった場面になりやすいのではなからうかと思えます。

つい先日も、こんなことがありました。

夫と一緒に病院に行った時のことです。先に病室に入った夫が「おーい。」と私を呼びました。入室前に手を洗っていた私は「ちょっと待てば良いのにうるさいなあ」とブツブツ言いながら病室に入りました。

夫「おい、親父は腹も脚もなんもかんもむき出しやったぞ。かわいそうやろが。タオルケットもかかってなかったやんか。体が冷たくなって。」と私に文句。すでに、夫がタオルケットをかけてくれていましたが、それを捲ると病衣も下着もはだけてしまい、胃瘻ボタンやオムツ、足が丸見えで体はすっかり冷え切っていました。その姿になって30分以上はたっていると想像できました。十分に動けなく言葉も出ない父は健側の左手がよく動くし、足もかすかに動きます。少しずつ動いている間に乱れてしまったのかもしれない。

しかし、下着は前がはだけ、めくれ上がり背中の上の方まであがっていました。もしも私の下着がこままではだけてしまったら、気持ち悪くて食事をしたりゆっくり眠ったりするどころではありません。さらに常に扉が開いている病室の廊下側にベッドがあるため通りすがりの人々に自分の乱れた姿がさらされていると

思うと、恥ずかしいどころか情けなく自尊心がボロボロになってしまい消え入りたくなることでしょう。

おむつ交換や体位変換の時に心地よいポジショニングをしてくださることを大前提に、病衣や下着を整えていただけると嬉しいです。スタッフさんによっては毎回きれいに整えてくれる人もいます。その方は、キッチリしていないと気が済まない性格のようです。しかし、こうしたことはスタッフの性格できれいにしてもらったりそうでなかったりするのではなく、病院内での統一事項となるとうれしいなと思います。衣類を整えることは、私たちが日常生活を送るうえでご当たり前の行為として行っています。なので、ひょっとしたら病院内では統一するケア内容として共有されていないのかなあと思うことがあります。

実はこのようなことをお話ししてふと気づいた興味深いことがあります。お父さんが施設に入所していた時のことです。介護スタッフさんはいつも下着やパジャマをきれいに整えてくれており、寝たきりの父親が見るからに心地よさそうに見えました。しかし、数名いた看護師さんが胃瘻をしてくれた時にはいつも下着がはだけたままでした。看護のための行為と介護のための行為で視点が違うのかなあ。などと、不思議でした。



それが病院では看護職も介護職も同じような動きをされていることが多いのです。

重度の患者が多く、手がかかるとは思いますが、下着や病衣の乱れは褥瘡発生の引き金になるということも聞いたことがあります。ご自分は

いつも患者の病衣をきれいにしているという方も、同じ病棟内のスタッフとこれらの情報を共有してもらえると患者も患者家族もほっとしてハッピーになれると思います。よろしく願いいたします。

抱え上げない看護・介護をあたりまえのケアに！ 【第2弾】を終えて

NPO福祉用具ネット理事 海尾 美年子

昨年に引き続き、第2弾をNPO福祉用具ネット主催で開催しました。(一社)ナチュラルハートフルケアネットワークと昨年結成の佐賀・大分・熊本・福岡のプロジェクトメンバーたちの心強い協力のもと、9月15～17日(3日間)の日程を無事終了いたしました。

初日(一部)は午前が講演、午後がパネルディスカッションと福祉用具の紹介と抱え上げない介護技術の体験。

2日目(二部)は昨年立ち上げたプロジェクトチームの1年間の地域別による活動報告・今後の計画についてグループワークを行い、計画を発表しました。

16時過ぎからは、抱えない介護技術を伝える人を育成するための技術認定チェック(三部)が、窓の外が真っ暗になった20時まで行われました。

3日目、前日からのつづきです。技術認定チェックの後半がスタート。16時には、それぞれの認定結果を受け取って散会となりました。この充実した3日間をレポートします。

3日間の参加者人数

1日目(9/15)・・・204名

2日目(9/16)・・・67名

3日目(9/17)・・・33名

1日目は「なぜ抱え上げない介護なのか」を(一社)こうしゆくゼロ協議会副代表の石橋弘人氏が講演されました。「人手不足倒産が医療介護を襲う！解決方法はこれしかない！」をテーマに1時間。聴いている皆さんの真剣なまなざしは、自分の職場の現状をどうにかしたいという意欲に満ちあふれているようでした。

次に昨年に引き続き、「介護の現状と抱え上げない介護に期待すること」をテーマに、(一社)ナチュラルハートフルケアネットワーク代表の下元佳子氏のお話。ノーリフティングケア実現のためにどのようにマネジメントしていくのか、高知県の取り組みの紹介がありました。昨年の高知県の取り組みが更に進んでいました。これからノーリフティングを始めようという施設やまさに取り組み中の施設の方には、とても参考になったようです。



午後からはパネルディスカッションでした。

テーマは「変えよう、変わろう、これからの医療や介護の現場を！」。進行役は、豊田謙二理事長が担当。パネリストは、北九州市で抱え上げない介護を実践している特別養護老人ホーム「ふじの木園」施設長の須藤秀作氏より「施設の実践報告」。

両親を介護しているNPO福祉用具ネット理事、左広美氏が患者家族の立場から、「両親の介護をとおして感じた事」。

他県の取り組みとして、NPO理事で抱え上げない介護に取り組んでいる山形茂生氏による「大分県の取り組み紹介」。

抱え上げない介護で欠かせない福祉用具を供給している福祉用具事業所、太陽シルバーサービスの川上徳高氏より「福祉用具貸与事業所の新たな挑戦」として今までにない施設レンタル挑戦についてお話いただきました。いろいろな立場の方たちからの情報は新しく、興味深いものでした。



いよいよ技術認定試験！

2日目、予定より15分遅れでスタート。33名の受講者は控室にてオリエンテーション。10種類の実技を2人1組のペアで挑戦していきます。山形氏より試験の流れの説明があり、2人1組のペアをつくり、1組のみ3人となりました。認定試験の終わりには、ペアを組み共に頑張りあった相手が忘れがたい存在となっている方もおられたようです。

認定チェック項目

- ① 姿勢管理とケアの必要性と身体の使い方
- ② グローブでの圧抜き
- ③ シートの使い方
- ④ 寝返り・起き上がり
- ⑤ 立ち上がり
- ⑥ ボード移乗
- ⑦ リフト（ベッド）
- ⑧ リフト（車いす）
- ⑨ 座位姿勢・姿勢修正
- ⑩ ベッド上でのポジショニング

早い者順に希望する項目に挑戦。あぶれたペアは予約ボードへ予約記入。呼ばれるまで順番を待ちます。受講者の皆さんの顔にはかすかな緊張がみられます。受講者控室も待合室として使用可能でしたが、みんな廊下での待機、誰一人控室には入りません。立ったまままでの待機。途中からイスが用意されましたが、こちらも座る人はあまりみられません。みんなの緊張ぶりが伝わります。嬉しい事に、廊下にお菓子テーブルがあり、最後までいろんな地域のお土産、チョコ、おせんべい、キャンディ、黒棒等々がありました。

こうして、受験第1日目は終了ですが、その後がまだまだあります。近くの居酒屋で希望者による懇親会が8時半から10時過ぎまでありました。下元先生、認定チェッカー、受験生が10数人、疲れているはずなのに元気復活！明日の試験は大丈夫？身体にしみとおるアルコールでした。

2日目のスタート！チェッカーの皆さんのミーティングから始まりました。廊下では、10項目を早く受講・合格できるようにペア同士での話し合い、動作確認がみられます。じっとイスに座って待つペアもいます。みんなの必死さが廊下全体に感じます。

認定チェッカーは合否の判断を下すだけではなく、残念ながら合格でない受講生に対しては、どこが不十分であったかを、丁寧に時間をかけて説明します。また、お昼の時間も惜しんで、一人でも多くの認定をしようという姿がとても印象的でした。



終了は16時。終了1時間前には合格者も徐々に誕生し、項目による受講生のかたよりがでてきて、スムーズに受講できなかったペアもありました。

しかし、何とか全ペア10項目の受講ができました。そして16時、終了です。

最終的に20組のペアが合格することができました。受講生のみなさん、認定チェッカーのみなさま、下元先生、お疲れさまでした。そして有難うございました。残念ながら合格でなかった方は、次の認定試験でリベンジを願います。



以上、3日間のイベントは終了しました。

このイベントは抱え上げない介護をよりたくさんの方へ、人へ広げる足掛かりとなるものです。メンバーの方、抱え上げない介護に賛同される方、自分の周りから少しずつ広げていきましょう。

全国に響け、「介護維新」の声！（上）

NPO福祉用具ネット 副理事長 坂田 栄二

人手不足の原因は、「腰痛」？

離職者の多い職業の1つが、介護職と言われている。あなたの職場は大丈夫ですか？

厚生労働省所管の公益財団法人「介護労働センター」の発表によりますと、人手不足を感じている介護事業所が全体の66.6%（2017年）に上り、前年度比4.0ポイント増で、増加は4年連続になるようだ。

その理由は、①同業他社との人材獲得競争の厳しさ②他産業と比べて労働条件・環境が良くないことが挙げられている。

政府は、「介護離職ゼロ」を政権の旗印の1つに掲げて施設やサービスの整備のスピードアップを図っていますが、その成果は十分に表れていない。特に労働環境要因を詳しく見ると、腰痛を訴えるケースが多いようです。厚生労働省が発表した「腰痛対策」では、図1に示すような要因が挙げられている。

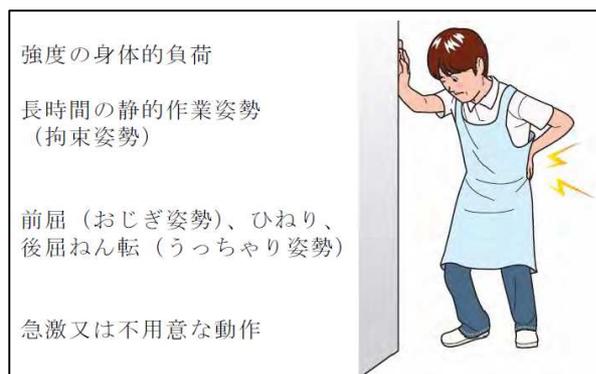


図1 職場における腰痛の要因

皆さんの周りでも、心当たりは有りませんか？

では、どうすればよいのだろう。

拡がらない「新しい介護技術」

NPO福祉用具ネットでは、「新しい福祉用具を活用した新しい介護技術」の普及を使命の1つとして設立され、当時としては目新しい“リフト、ボード、スライディングシート、圧抜きグローブ”の使い方研修会を繰り返し開催してきた。

それから17年、腰痛問題がクローズアップされる中、大山事務局長は遅々として進まない普及に業を煮やし、こんな大号令を発した。

「こんな研修会は、今年で最後とする。本当にやる気のある人を中心に、徹底的に技術をマスターしてもらい、その人たちを核にして地域のレベルを上げる。」

しかし、このような新しい研修システムをどうしたら実現するのか、大山には迷いがあった。

“高知家統一ケア”とは

そのころ、既に高知県では、抱え上げない「ノーリフティングケア」活動が展開されていた。この活動を率いているのが、一般社団法人ナチュラルハートフルケアネットワーク 代表理事 下元 佳子先生。現在では、介護職の人だけでなく、施設、行政までも巻き込んで、「高知家統一基本ケア」プログラムを確立させ、強力な研修システムを構築し、大きなうねりとなって、高知県は基より、全国に より良いケアを広げる活動を発信し続けている。

このシステムは人材育成を柱とし、ケア技術を15項目に区分けし、まず全項目を受講すると修了登録される。

ついでこの登録者の中から、各地で講習活動できる実をつけるための「伝える技術」研修、実地研修を受け、認定試験をクリアすれば、認定講師の誕生。

更に、認定講師の中から選ばれた人が指導者研修を受けて、認定講師を指導する指定指導者が育成される。土佐高知が発する“介護維新”

教育内容、資格制度などをここまで体系付け、更に運用できるレベルにまで詳細に落とし込むには、多くの時間と費用が掛かったと思われる。

大山事務局長は、この研修システムを導入することを下元先生に相談した。もちろん下元先生は快諾してくださった。が、私どもに惜しげもなくご提供して頂けたことに感謝します。

全国の意欲ある地域に向けて、新しい介護技術の普及活動を進める土佐（高知県）の活動は、まさに古い体制を刷新する維新であり、これを「介護維新」と言うべきであろう。この介護維新が、全国に響き亘り、新しい介護技術が定着する日は近いようだ。

さて、NPO福祉用具ネットは、介護技術の中でも特に腰痛対策を目指して、

「抱え上げない看護・介護を、あたりまえのケアに！」をスローガンに掲げ、その普及活動しているが、高知県の進める15項目すべてを同時に取り組むのは、負荷が大きいと考え、腰痛対策以外の例えば排泄管理、スキンケア褥瘡予防、メンタルヘルスなどは、個別テーマ研修として、別枠で実行している。

スローガンのスタートにあたり、必要になるのは「核になる人」の集結である。

九州地区には、各県に新しい介護技術の習得を目指す若い人達がすでに居ることがわかり、スタートはこの人達を核にするために、“一緒に盛り上げよう”と呼びかけて、高知県に集団で研修に出かけた。（つづく）

事務局だより

《30年7月から9月までの事務局のうごき》

平成30年6月の追加

平成30年6月

6月20日 開発相談

情報誌ささえ64号 編集・校正・印刷・発送準備

平成30年7月

7月2日 開発相談

7月4日 展示会 福岡

開発相談

7月5日 開発相談 名古屋

7月7日 キネステ体験会

7月9日 開発相談 2件

7月10日 開発相談 2件

7月11日 開発相談 2件

7月13日 開発相談

7月14日 開発相談

7月17日 開発相談

7月19日 開発相談

7月23日 福祉用具研究会

7月24日 開発相談

7月27日 開発相談

7月29日 抱え上げない介護学習会

平成30年8月

8月2日 開発相談

8月3日 開発相談

8月8日 開発相談

8月9日 開発相談

8月18日 キネステ体験会（午前は抱え上げない介護の体験会）

8月20日 開発相談

8月21日 福祉用具研究会

8月23日 開発相談

8月25日 補習研修

8月26日 抱え上げない介護学習会

8月28日 福岡にて、福祉機器ニーズ発表会

8月30日 開発相談

8月31日 開発相談

平成30年9月

おむつフィッター3級研修会開催準備

抱え上げない介護イベント開催準備

情報誌ささえ65号発行準備

9月7日・8日 おむつフィッター3級研修会

9月15日・16日・17日 抱え上げない介護イベント

9月19日 開発相談

9月20日 福祉用具研究会

9月28日 開発相談

9月29日 メンタルヘルス研修会

《今後の予定 10月から12月まで》

10月情報誌ささえ65号発行

10月7日 開発相談

10月10日～12日 HCR

10月21日 抱え上げない介護学習会

11月11日 抱え上げない介護学習会

11月15日～17日 PPC

12月23日 抱え上げない介護学習会

西日本国際福祉機器展のご案内

日時 平成30年11月15日～17日3日間

■ NPO福祉用具ネットのブースセミナー

申込不要 無料

◆1日目

①医療・福祉業界の働き方改革

～抱え上げない介護で魅力的な職場に！～

②グローブでの圧抜き

③リフトの使い方

④座位姿勢と姿勢修正

◆2日目

①排せつケア用品紹介ツアー

②立ち上がり移乗 ボードの使い方

③姿勢管理と抱え上げないケアの必要性和身体の使い方

④寝返りと起き上がり

◆3日目

①おむつの選び方・当て方

②スライディングシートの使い方

③スタンディングマシンの使い方

④ベッド上ポジショニングの基礎

■ キネステ体験会

事前申込必要 有料700円

1日目 午前の部・午後の部

2日目 午前の部・午後の部

3日目 午前の部のみ

■ 特別企画

事前申込必要 無料

平成30年度福岡県福祉機器開発等支援事業

福祉・介護機器製品ニーズ発表会

11月15日13時30分～16時

会場 AIM3階 311会議室

■ 排せつケア用品紹介コーナー

おむつ・おむつ・軽失禁用品・集尿器・自動排泄処理装置・ポータブルトイレなど

■ 抱え上げない介護技術体験コーナー

グローブ・シート・ボード・リフト・スタンディングマシン・ポジショニングクッション・体圧測定器や最新の介護ベッドなど